

## 滋賀県産業振興ビジョン改定版〈素案〉における意見 (当日御欠席された委員の意見)

- 滋賀県内には高い技術力をもった製造業の会社が多いので、一体となって何か一つのものを作って発信すると、凄いものができるのではないのでしょうか。
- チェンジへのチャレンジ、と自ら発信しているのであるから、行政自らチャレンジをしたほうが、変わることを伝えられるのではないのでしょうか。
- (4 ページ)  
キーマッセージそのものに違和感はありませんが、キーマッセージが一人歩きするとビジョン全体の意図から乖離してしまうことが懸念されます。  
「県民と県内企業、もっと頑張れ！」と受け取られては、従前の審議会で提起されたご意見「県は環境を整えることが役割」とも合わないように感じます。  
ビジョンの主旨は「持続可能な最適社会を創る」ために「リスク、失敗を受け容れ、共創を進め挑戦し続けること」ですので、「チェンジ・チャレンジ」だけでは十分にそのニュアンスが伝わらないように感じます。例えば、「チェンジ・チャレンジ」に(5 ページ)「社会課題をビジネスで解決し続ける県・日本で一番チャレンジしやすい県」をサブタイトルで添えると、そのイメージが伝わるのではと思います。
- (14 ページ)  
「従来の産業区分に捉われず」に加えて、企業規模(大企業、中小企業、スタートアップ、個人事業主)、企業形態(株式会社、組合、NPO、プロジェクトチーム)の垣根に捉われないというメッセージを合わせて打ち出す方が、「異分野の融合による新しい産業」につながるのではないのでしょうか。どうしても一次、二次、三次の融合は製造・加工・販売一貫モデル(所謂六次産業化)という固定観念を想起しますし、四次、六次は必ずしも MECE な概念ではありませんので、ベン図から「融合による新しい産業」がイメージしにくいと感じます。
- (15 ページ)  
ポンチ絵の矢印が論理構造を示していない点が気になります。上段(2030年の目指す姿)と中段(新しいテクノロジー?)は独立しており、相互のつながりが伺えません。恐らく下段(産業を支える要素・側面)と上段の間に16ページの4つの視点が挿入され、さらに挑戦することが奨励されることでマインドセットと動機づけがあり、「2030年の目指す姿」につながるというロジックになるかと思いますが、「ポイント」ではバックキャストとフォアキャストを要旨としており、全体としてこのページの意図がわかりにくくなっていると感じます。

- (16 ページ)

より「人を中心とする視点」がアピールできないでしょうか。

視点1「チャレンジする」という言葉使いの下に起業家、革新者という例示をすることは、本ビジョンの対象が一部のビジネス意識の高い人の話と受け取られかねず、包摂性と持続可能性、三方良し、忘己利他といった当地の精神的な特徴を上手く含意できていないように感じます。誰もが無理のない形で社会参画することで一隅を照らし、様々な形の経済活動を惹起するというニュアンスが織り込めると良いと感じています。

視点3「健康」という言葉使いは一義的には医療、疾病治療をイメージし、ビジネスとしての領域を狭めるように感じます。(カタカナ言葉は避けるべきかも知れませんが) ウェルビーイングなど QOL を高める広い概念を示すことでビジネスとしての伸びしろを示してはどうでしょうか。

細かい点では、<例>にある「社会的課題をビジネスで解決」はビジョンの最上位目的であるにも関わらずここに記載されていることに違和感を感じます。また、「世界から稼ぐ力の向上」はあくまでも結果論であり、その前提として世界に社会課題をビジネスで解決するという価値を届けることこそ目的として掲げるには適切と思います。

- (17 ページ)

チャレンジ2、3、7の違いがややわかりにくいと思います。

チャレンジ9では投資は呼び込むものだけではなく、自らリスクを取るという姿勢も表明してはいかがでしょうか。

チャレンジ6は論理的にはクロスセクターによる横断的な取り組みを支援した結果、産業分野の融合が促進され、業際に新たなビジネスが生まれる、ないしは業種区分に捉われない新たなビジネスモデルが創出されるということかと思えます。(「産業分野の融合を支援」という言葉だけが一人歩きすると所謂構造改革的なニュアンスに誤解されないかと懸念しています。)

チャレンジの一つとして「働き方改革」といった県民全体、県内活動人口に向けたメッセージがあっても良いのではないかと感じました。

- (19 ページ)

このビジョンを象徴するイノベーティブな「目玉」がいくつかあった方がわかりやすくなるのではないのでしょうか。例えば、大学・研究機関、大企業、地域企業、個人事業主をネットワークするフューチャーセンター(学びと構想の場)を本ビジョンのモニタリング機能を兼ねて県主導で大津駅近くに立ち上げてはいかがでしょうか。滋賀県の精神風土を背景として、既存の枠組みにはない新しい「つながり」を創ることが、「社会課題をビジネスで解決し続ける県・日本で一番チャレンジしやすい県」を実現する上で、わかりやすい施策となるのではないのでしょうか。

以上